

平成26年度～地域で気づき・つなぎ・支える～認知症総合支援事業

認知症対応 地域支援推進モデル事業 取組事例集



京都市

はじめに

「認知症かもしれない」と“気づいた”ときに、必要な支援に“つながる”ことができ、住み慣れた地域で“支え”られて暮らしていける——そのような連続性のある支援体制の構築を目指して、京都市では平成25年度から「～地域で気づき・つなぎ・支える～認知症総合支援事業」を実施しています。

認知症の支援においては、かかりつけ医など地域の医療機関と地域包括支援センターをはじめ本人・家族をとりまく多様な関係者の連携が必要不可欠です。

認知症総合支援事業のうち、「認知症対応 地域支援推進モデル事業」では、医療と介護・福祉の関係機関等での連携により、地域で認知症の人やその家族を支援する取組を募集・実施しました。本冊はそれらの取組の経過や成果をまとめた事例集です。

事業2年目となる平成26年度は、「医療と介護の連携体制構築」「若年性認知症の人を支える」「徘徊症状のある人を支える」「認知症予防と啓発」「地域密着型サービスとの連携で支える」の5つのテーマで募集し、9つの取組を実施しました。

それぞれのテーマに呼応して、熱意と工夫あふれる取組が実践されていますので、日頃から認知症の支援をされている関係者の方々にぜひ御一読いただき、認知症になっても安心して暮らし続けていくことができる地域づくりを、ともに進めてまいりたいと考えております。

また、地域包括支援センターにおかれましては、「包括的・継続的ケアマネジメント事業」や地域ケア会議等において、日頃からかかりつけ医や介護支援専門員等との多職種協働や、地域の関係機関との連携に御尽力いただいているところであり、本冊を今後の業務の参考として役立てていただければ幸いです。

紙面の都合上、掲載しきれなかった工夫等もありますので、詳細は各取組実施者にお問い合わせいただくなど、貴重な経験の共有化をさらに図っていただければと思います。

本市といたしましても、この2年間の取組をふまえながら、地域における医療と介護・福祉分野での更なる連携強化により、地域ぐるみで認知症の人とその家族を支える取組を推進してまいります。

最後に、本冊の作成にあたりましては、モデル事業実施者の皆様に多大なる御協力をいただきました。お忙しい中、貴重な御意見や資料をいただき、深く感謝申し上げます。

平成27年3月

京都市保健福祉局長 寿社会部長 寿福祉課

目次

—「認知症カフェ」を様々なかたちで—

取組①	「上京つどい・つながるカフェ」	1
	上京東部医師会(上京区)	
取組②	「認知症キャラバンカフェ」	6
	社会福祉法人 緑寿会(山科区)	
取組③	「4141(よいよい)カフェ」	10
	医療法人 健康会(下京区)	
取組④	「SAKURAカフェ」	15
	社会福祉法人 永山会(伏見区)	
取組⑤	「ほっこり☆カフェ」	19
	医療法人 医仁会(伏見区)	

—徘徊症状のある人を支える・見守る—

取組⑥	「おでかけ安心事業」	24
	社会福祉法人 七野会(北区・上京区)	
取組⑦	「徘徊模擬訓練を通じたネットワーク作りと次世代(小学校・児童館)への認知症の啓発」	29
	医療法人 三幸会(左京区)	

—認知症の予防や早期発見・啓発のために—

取組⑧	「ファイブコグ検査活用による認知症予防と啓発活動事業」	33
	一般社団法人 愛生会(山科区)	
取組⑨	「認知症の理解を高めるつどい」	38
	一般社団法人 下京西部医師会(下京区・南区)	

参 考	「認知症対応 地域支援推進モデル事業」概要及び企画提案募集要領	42
-----	---------------------------------	----

取組①

上京つどい・つながるカフェ

(テーマA：医療と介護の連携体制構築)

上京東部医師会

① 実施主体の紹介

当医師会は上京区の東半分と北区南部を含む（おおよ賀茂川、紫明通、丸太町通、堀川通の中）地域で、紫明・室町・中立・京極・春日の5班と2つの病院班（京都第二赤十字病院、京都鞍馬口医療センター）で構成されています。

協力団体は北区・上京区認知症サポートネットワーク連絡会（北区・上京区の医師会、薬剤師会、作業療法士会、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、認知症の人と家族の会、社会福祉協議会などが集まり、行政とともに認知症対策事業の企画、実施、推進をする団体）です。

② 実施地域の特徴

上京区京極学区と室町学区で事業を実施しました。いずれも旧市街北部で社寺仏閣、学校が多い住宅地、商業地です。主たる実施地区となった京極学区は、樹形商店街を中心に、地域住民の交流が盛んで、独居者、高齢者のサークルなども多数運営されています。

③ 取組の目的

京都で、また全国で、多くの認知症カフェ事業が始まっていますが、医師会の関わりは比較的に少ない状況です。いうまでもなく、認知症への対応は、ご家族や介護スタッフとともにかかりつけ医の役割でもあります。地域に根ざしたかかりつけ医がカフェを主導することで、患者様、ご家族様にも安心して参加できるカフェができるのではないかと、地域医療を担う医師にとっても認知症を取り巻く社会状況を学ぶ大切な機会になるのではないかと、との思いで「とにかくまずやってみよう」と取り組みました。

④ 取組の内容

地区医師会会員の施設（病院・診療所等）を利用して、複数箇所でカフェを実施しました。

場 所 ①竹上内科クリニック（出町会場） ②室町病院（室町会場）

日 時 ①平成26年11月16日（日）、12月6日（土）、平成27年1月18日（日）、2月22日（日）
②平成26年11月29日（土）
いずれも14時～16時

内 容 (1) 認知症の解説（または認知症予防体操）【30分】
(2) ミニコンサート【30分】
(3) カフェタイム（自由に雑談）【60分】

⑤ 取組の工夫

実施団体、協力団体のサポーターは開始1時間前に集合し、役割分担を確認しました。カフェタイムの充実を最も重視し、できるだけ楽しく話が续くよう、スタッフも積極的に会話の中に入ることをしました。終了後は短時間の反省会を実施し、参加者がより充実した時間を過ごせるよう意見交換しました。

⑥ 取組の成果

<参加者数とその内訳>

参加者分類	出町 1 回目	出町 2 回目	室町	出町 3 回目	出町 4 回目
医師、医院スタッフ、出演者	6	8	16	4	6
地域包括、居宅、訪看など	9	5	5	7	6
長寿福祉課、福祉事務所など	2	0	0	1	1
作業療法士会	1	0	0	1	0
住民組織、社協など	8	4	0	2	2
薬局、製薬会社など	2	2	0	0	0
その他の団体、組織	3	2	0	3	3
お客様	17	9	21	10	17
合 計	48	30	42	28	35

注：お客様以外の参加者の中には、純粋サポーター（ボランティア）でも実質お客様として参加された方も含まれます。厳密にサポーターかお客様かに分けることが難しい参加者は毎回若干おられました。

<参加者アンケート結果> 別添4ページ

<主な成果>

- 地区医師会と地域包括支援センターなどの介護関係事業所、区社会福祉協議会などの協力機関の間に、お互いに相談しやすい関係を構築するのに非常に有用でした。
- 例数は少ないものの、患者様、ご家族様からの相談を受け、将来に向けた話をすることができました。
- 参加者相互に知り合い、仲良くなってきており、地域住民のつながりに貢献できました。
- 回を重ねるごとにカフェタイムが充実して、どのテーブルもにこやかに会話が弾み、心を解放する時間を作ることができました。
- 大きな声で懐かしい歌を合唱する楽しさを共有でき、音楽の役割が非常に重要と感じられました。
- スタッフも進んで話の輪に入り、場を盛り上げる役割を学習できました。

⑦ 見えてきた課題

- 参加者がまた参加したいと思う環境を作るには、十分な準備と若干の経験と反省が必要であり、スタッフにはそれなりの努力が要求されます。
- 一つのカフェで担当できる人数とエリアは限定されており、当医師会のエリア内でもより多くのカフェ（居場所）を作るべきと考えますが、実際にカフェを実施することを決断できる医療機関は多くありません。
- 今回、参加対象としたのは軽度認知症の方と予備軍で、比較的元気な人でした。より重い認知症への対応はまだハードルが高く、また同じカフェに重度の方が参加することは現実的には難しいです。
- 参加者にとって必要なのは、継続して足を運べる居場所であり、心を開いて話ができて生活に楽しみをもたらす居場所です。「継続は力なり」！
- カフェを継続するための時間とマンパワーと資金をいかに安定させるか、このためには地域サポーターの協力と育成が不可欠です。また、行政の継続的サポートを要望します。
- 本カフェ継続のため、北区・上京区認知症サポートネットワーク連絡会や地域の住民組織、あるいは社会福祉協議会などと連絡を取り合って協力体制を構築してゆく必要があります。

⑧ 今後の展望

- 事業の後半では次第に参加者の満足度が上がり、継続を希望する声が大きくなりました。平成27年4月以降、当医師会としては、出町会場（竹上内科クリニック）で月1回のカフェ開催を計画しています。
- カフェ継続に必要なマンパワーと地域のつながりを高めるために、北区・上京区認知症サポートネットワーク連絡会、京極学区の住民組織、上京区の社会福祉協議会などに協力を求めており、ある程度の人数は集められる見込みです。また、近隣の認知症カフェ（サロン）との協力、認知症対策に興味を持つNPO法人との協力も検討中です。

⑨ 感想、他地域に伝えたいこと

- 最初から満足できる結果を得ることは難しいです。しかし、回を重ねて経験を積むことで、参加者がカフェで談笑する雰囲気を作るコツが得られていくと感じました。
- 各スタッフ（サポーター）が自らの話の輪に入り、スムーズな対話ができるよう役割を果たすことを学習していく必要があります。
- 認知症の解説は、ユーモアを交えて分かりやすく、そして、音楽は参加者の心をカフェの雰囲気に引き込むために非常に重要でした。そして、カフェタイムが最も重要で、この時間に参加者同士、参加者とサポーターのつながりが生まれ、継続して参加したい思いが生まれてきます。話もそこそこに会場を後にする人が多いうちはまだ準備期間と心得ることが必要でしょう。

⑩ 問合せ先

【本事業責任者】 竹上内科クリニック

☎075-211-3830（月～土9時～12時半、月火水金16時～19時半、担当：竹上徹）



別添 参加者アンケート結果（平成27年2月実施分、回答者15名 重複回答あり）

【今回のカフェの情報を何で（どなたから）お知りになりましたか？】

前回参加時	4	友人・知人	4
医師・医院	1	チラシ	2
地域包括支援センター	1	社会福祉協議会	1

【参加してみていかがでしたか？】

良かった・楽しかった	8	勉強になった	3
大勢集まっていた	1	全部参加できた	1

【特に良かったところや改善してほしいところがあれば、ご記入ください。】

歌・音楽	7	筋トレ（体操）	4
全部良かった	3	認知症の講演	2
カフェタイムの雑談	2		

【また参加してみたいですか？】

はい	13	知識を得たい	1
もっと広めてほしい	1		

【こんな企画があればいいのに、と思われる事があればぜひ教えてください
（例えば、歌や絵画のサークルとか）。】

今のままがいい	3	筋トレ（体操）	3
もっと開催時間を長く	1	絵画	1
手芸	1	しりとり	1
じゃんけん	1	葦（よし）笛	1

<アンケートから見たこと>

- 全体の傾向は初回からほぼ同じ。リピーターは増えた。
- 回を重ねるごとに、カフェタイムの会話が徐々に弾むようになり、終了時刻になっても話が終わる気配がないほどにぎやかに。途中退席者も少なくなった。
- 実施する側が経験を積んで積極的に会話の輪に入ったこともあるが、楽しい雰囲気が自然に盛り上がってきたことは感激であった。
- 参加して良かった、楽しかった、という回答が増えてきた。
- どんな企画を望むか、の問いに、今のままがいい、という回答が増えたことは、カフェの雰囲気が盛り上がってきたことを示している。
- 筋トレ（体操）の指導を望む声が多いのは、やはり身体面に不安を抱えている人が多いということではないか。
- 認知症の講演は、わかりやすく興味を持てるように工夫しなければならない。
- 歌や音楽に対する評価は良好だった。皆で合唱する歌に、懐メロを選んだことは結果として非常に良かったと思われる。
- すべてよかった、との回答があったのは、主催者側として努力が報われた思いであり、この事業に対して一定の評価が得られたと理解したい。



上京つどい・つながるカフェ

2015年もやるよ！

上京東部医師会主催のオレンジカフェです。

つまり



- ◎認知症を知ることができる。
- ◎認知症になっても気軽に立ち寄れる。
- ◎集まって楽しくお話をして情報交換も出来る。
- ◎認知症の相談ができる。
- ◎講演あり、音楽あり、お茶タイムあり。

☆ 1月18日(日)
☆ 2月22日(日)
いづれも午後2～4時
竹上内科クリニック2階にて
☆講演30分、音楽会30分、そして
お茶タイム60分の予定。
なお出町会場は2階ですので、
階段を上がれる人でないと難しいと
思います。
対象は、認知症の患者様とご家族、
予備群(認知症が心配な高齢者)、
勉強したい方、サポーター。

竹上内科クリニック



＜なるべく御予約下さい＞

★竹上内科クリニック(担当：竹上徹)
(☎075-211-3830)

参加費(飲物代) 100円
◆メニュー
飲物：コーヒー、紅茶
お茶、ジュース など
お菓子もありますよ。



(主催：上京東部医師会)

協力団体：北区・上京区認知症サポートネットワーク連絡会
！北区・上京区の医師会、薬剤師会、作業療法士会、地域包括支援セン
ター、居宅支援事業所、支援会、社会福祉協議会などが集まり、行政と
ともに認知症対策を検討し、推進する団体です。]

上京つどい・つながるカフェ

☆1月18日(日) 午後2～4時 竹上内科クリニック2階にて

- 上京東部医師会主催のオレンジカフェによること。
- ◎認知症のことを皆さんと一緒に勉強しましょう。
 - ◎認知症になっても気軽に立ち寄れる、楽しいつどいの場です。
 - ◎集まって楽しくお話をして情報交換をしましょう。
 - ◎いろいろな職種のサポーターがいいます。認知症の相談は任せ下さい。
 - ◎講演あり、音楽あり、お茶タイムあり。さあ、どうぞごゆっくり。

◇ 本日のスケジュール ◇

講演 (約30分)
『認知症への対応力とは』 講師 竹上内科クリニック 竹上 徹
ミニ音楽会 (約30分)
日本の歌 <歌> 竹上真文 (たけがみ きあや) ピアノ：河合朋子 >
富士山
早春賦
ピアノソロ <ピアノ：河合朋子>
お江戸日本橋
日本の歌 <歌> 竹上真文 (たけがみ きあや) ピアノ：河合朋子 >
唱歌メドレー
皆で歌いましょう <ピアノ伴奏：河合朋子>
冬景色
ふるさと
春の小川
高栗列車は行く (ここだけギター伴奏：竹上 徹)
お茶タイム (約1時間)



参加費(飲物代) 100円

◆メニュー

飲物：温かいコーヒーがメインですが、冷たい飲物なら紅茶や
お茶、ジュース などがあります (お代わり自由！)
お菓子もありますよ。

取組②

認知症キャラバンカフェ

(テーマA：医療と介護の連携体制構築)

社会福祉法人 緑寿会（日ノ岡地域包括支援センター受託法人）

① 実施主体の紹介

当事業所は山科区の北西部にある「陵ヶ岡学区」「鏡山学区」を管轄する地域包括支援センターです。平成25年度に日常生活圏域内にある喫茶店を会場にした認知症カフェ事業を、担当日常生活圏域が隣接する山階地域包括支援センターと合同で実施したため、本年度も同様の流れで2センター合同で行いました。

② 実施地域の特徴

山科区は元々京都市の中心部に比べ若年層の多い地域でしたが、表1のとおり、平成22年頃より高齢化率が逆転し、現在市内の平均値よりも高齢化は進行しています。なかでも本事業を実施した鏡山、陵ヶ岡及び安朱学区周辺は、区内でも早くから開発されていた地域であり、高齢化率や独居高齢者の割合が高い地域となっています。

表1 高齢化率の比較* (%)

	京都市	山科区	鏡山	安朱	陵ヶ岡
平成12年	17.2	15.3	16.2	19.1	30.1
平成17年	19.9	18.9	20.3	20.3	33.9
平成22年	23.0	23.4	25.2	23.3	36.4

③ 取組の目的

上述のとおり、当センターでは平成25年度に圏域内の喫茶店を借りて認知症カフェを実施してきました。しかし、その喫茶店は店舗が狭いことや、来店者のための駐車スペースがないこと、また通常の喫茶店の営業時間に開催することの弊害などもあり、ゆっくり歓談や相談を行うには物理的に無理が生じていました。そこで、平成26年度からは会場を特別養護老人ホーム「香東園やましな」にある地域交流を目的にしたカフェ「TSUBAKI」に移し、会場を借り切ることで、駐車スペースや広い空間を確保することができました。この会場の変更は多くの利点をもたらしましたが、車で来店される認知症の方はおられず、また、ご家族の送迎による来店もほとんどありませんでした。（おそらく、ご家族は日中就労されていることが多いためと考えられます。）また、「香東園やましな」は山科の街中にある施設ですが、地下鉄や市バスなどの公共交通機関からは離れたところにあり、結局来店される方は健脚で、おしゃべり好きなおばあちゃんが大半という状況でした。

これらの状況を受け、本当に居場所や相談できる空間を必要とする人たちのところにこのカフェを出前しようということになったのが、大まかな経緯です。よって本事業の目的は、カフェに来たくても来ることができない人たちにカフェという空間をお届けして、専門職が早い段階から関わり始めることができるようになることと、街の隅々から認知症の理解を広めていくことといえます。

④ 取組の内容

認知症の方やそのご家族、認知症に興味のある方を対象に、音楽演奏と茶話会を中心に行った「認知症カフェ」ですが、図1のとおり、その会場に地域の集会所やお寺、医師会のホールなどをお借りして実施しました。また、早期受診の勧奨も大きな目的の一つだった



図1 本事業でお借りした会場

*出典：『京都市地域統計要覧 一平成25年版一』

ため、医師会とのつながりも重視し、毎回山科医師会より医師にも出席いただきました。医師には健康にまつわる講話の実施と、その後の茶話会にも加わってもらうことで、参加者の“医師”という職種への親近感が高まるような関係構築にも努めました。

⑤ 取組の工夫

本事業に協力いただいたボランティアさん（認知症あんしんアドバンスサポーターの方）とは定期的に意見交流会を行い、疑問点や不満点を傾聴し、ボランティアを続けていくインセンティブを維持していただけるよう留意しました。

⑥ 取組の成果

表2のとおり、第1回目となる山科医師会館での開催の際には事前の周知活動が十分でなかったことから参加人数も少数にとどまりましたが、2回目以降は次第に地域への周知が進むに連れ参加者も増えてきました。そして何よりも来店された方が認知症のことを「忌むべき病気でもっともなりたくないもの」という感覚から脱却して、とにかく早期受診が大事であり、医師も認知症に理解があり、認知症と診断されてもその後の生活次第である程度は状態を維持できる可能性があることなどを知っていただけました。今では「認知症で大事なのは早期受診」と高年齢の方もお話しくださるようになりました。

表2 参加人数

開催日	参加人数
①平成26年11月13日	3人
②平成26年12月 4日	20人
③平成27年 1月17日	21人
④平成27年 2月 7日	18人

⑦ 見えてきた課題

当初は、移動の手段を持たず、カフェに来たくても来ることができないような、認知症でお悩みの方やそのご家族を主対象として考えていたのですが、当方の周知不足もあり、そういった層の方は多くは来ていただけませんでした。そのため、図2にあるように、本事業の中核層とその周縁の層と対象者を広く設定しなおし、認知症のある人もない人も認知症についてオープンに語り合える場としました。



図2 本事業の考えるカフェの対象者

⑧ 今後の展望

本来、認知症カフェの持つ最大の機能は相談機能であり、専門職と早い段階で出会ってもらう場であるべきであり、その意味ではまだ道半ばともいえます。しかし、本事業における取組は、上記の本来のカフェに繋がる橋頭堡となると考えており、次年度以降は本拠地で行うカフェのお出かけ版として継続開催していく予定です。

⑨ 問合せ先

日ノ岡地域包括支援センター（高齢サポート・日ノ岡）

☎075-595-5575（平日9時～17時）



地域に配布した開催を知らせるチラシ

出前

認知症対応地域支援推進モデル事業

オレンジカフェ

に遊びに来ませんか



オレンジカフェ開催のお知らせ

この度下記のとおり、山科医師会の2号ホールをお借りして「オレンジカフェ」(認知症の方やそのご家族等で認知症でお悩みの方たちの集い)を開催いたします。
おいしいコーヒーなどを飲みながらお悩みのことを専門職に話してみませんか。何かよい方策や仲間が見つかるかも。

日時 平成26年11月13日(木) 午後2時~4時

場所 山科医師会診療センター(山科区春日西林9)



第1回 山科医師会館

ご不明の点がありましたら高齢サポート・日ノ岡
(TEL 595-5575)までお電話下さい。

オレンジカフェってご存知ですか?認知症の方やそのご家族を対象として「カフェ」という中でお茶を飲みながら、気軽に認知症のことを相談できる事業です。
ゆったりとした雰囲気づくりのため毎回、生の音楽演奏があったり、普段はゆっくゆっくお医者さんが来てくれてお茶を飲みながらゆっくり話に付きあってくなど診察室ではなかなか明かせないような心相談しやすい空間作りに努めています。

事業はこれまで特定の場所で行って参りましたが、移動手段がない方にもご利用頂けるよう、この要領で区内4箇所を巡回方式で回ることとした。
すでにお悩みの方、一歩早めに専門職に出会って相談してみませんか。



と場所(時間は全て午後2時から4時まで)

開催日	会場	住所
26年11月13日(木)	山科医師会館	山科区春日西林9番地
12月4日(木)	北花山公会堂	山科区北花山中道町2-1
27年1月17日(土)	当麻寺	山科区御陵島ノ向町29
2月7日(土)	ヒルデモア東山	山科区区日ノ岡夷谷町21-15

などのお飲み物とお菓子のセットでお一人250円です。

診断された方や認知症に対し不安を抱えておられる方、
方を介助していらっしゃるご家族。



オレンジカフェ開催のお知らせ

この度下記のとおり、北花山の公会堂をお借りして「オレンジカフェ」(認知症の方やそのご家族等で認知症でお悩みの方たちの集い)を開催いたします。
当日はスタッフとして地域福祉の専門職が来ています。
おいしいコーヒーなどを飲みながらお悩みのことを話してみませんか。何かよい方策や仲間が見つかるかも。当日は必ず、お楽しみに!!

日時 平成26年12月4日(木) 午後2時~4時

場所 北花山公会堂(山科区北花山中道町2-1)



第2回 北花山公会堂

ご不明の点がありましたら高齢サポート・日ノ岡
(TEL 595-5575)までお電話下さい。



オレンジカフェ開催のお知らせ

この度下記のとおり、当麻寺(たいまじ)さんのお堂をお借りして「オレンジカフェ」(認知症の方やそのご家族等で認知症でお悩みの方たちの集い)を開催いたします。
おいしいコーヒーなどを飲みながらお悩みのことを専門職に話してみませんか。何かよい方策や仲間が見つかるかも。

日時 平成27年1月17日(土) 午後2時~4時

場所 当麻寺(たいまじ)さん(下記の地図参照下さい)



ご不明の点がありましたら高齢サポート・日ノ岡
(TEL 595-5575)までお電話下さい。

第3回 当麻寺

全日程の載ったチラシ

オレンジカフェ開催のお知らせ

この度下記のとおり、ヒルデモア東山のホールをお借りして「オレンジカフェ」(認知症の方やそのご家族等で認知症でお悩みの方たちの集い)を開催いたします。
おいしいコーヒーなどを飲みながらお悩みのことを専門職に話してみませんか。何かよい方策や仲間が見つかるかも。

日時 平成27年2月7日(土) 午後2時~4時

場所 ヒルデモア東山(山科区日ノ岡夷谷町21-15)

費用 お一人250円(コーヒーとお菓子をお出しします)



ご不明の点がありましたら高齢サポート・日ノ岡
(TEL 595-5575)までお電話下さい。

第4回 ヒルデモア東山

開催中の様子



取組③

4141 (よいよい) カフェ

(テーマD：認知症予防と啓発)

医療法人 健康会（下京西部地域包括支援センター受託法人）

① 実施主体の紹介

実施主体は京都市下京西部地域包括支援センターです。3職種+加配職員1名の計4名が配属され、大内・七条・西大路の3学区を担当しています。2006年開設当初から、「男性の料理教室」をはじめ「ニットカフェ」や「ヨガ教室」等の介護予防に取り組みできました。地域介護予防推進センターや法人内の専門職、プロの画家さんやボランティアさんたちの協力により、毎年少しずつ介護予防教室が増えてきています。

② 実施地域の特徴

圏域内には京都市中央卸売市場や京都水族館、梅小路公園があります。西大路七条周辺はバスの便がよく、大きなスーパーや商店街があるので便利なところですが、銭湯や個人商店は徐々に姿を消し、大通りから外れた地域に住んでいる高齢者にとっては暮らしづらい面もあります。また、下京区役所をはじめ、図書館・老人福祉センター・地域介護予防推進センターなどは下京区の東の方に偏っていて、しかもバス通りからは外れたところにあるため、当センター圏域内の高齢者にとっては交通の便が悪く利用しづらいようです。最近マンションが増えたので子どもの数も増えてきていますが、町内会への加入率は下がってきているそうです。地域で開催されるいろいろな行事の運営や見守り活動をする担い手が高齢化し、世代交代が難しいという話も聞きます。一人暮らしの高齢者が年々増えていくなか、自宅を改装して「居場所」として提供してくださっている方や、東日本大震災の被災者支援のために立ち上がったカフェなど、世代を超えて人と人とのつながりを作ろうと活躍する若い人たちもいます。

③ 取組の目的

当センターではもともと、鬱っぽくて閉じこもりがちの人や軽度認知症の人たち対象に「ニットカフェ」という取組を月に1回してきました。通所系サービスには行きたくないが、家の近所で、自分の好きな編み物や縫い物をしながら気軽に話ができて1時間半程度で終わるような、小さい集まりの場があれば行きたい、というある利用者からの希望で生まれたものです。ただこの会は、認知症ではない人たちも半分くらいおられ、自分たちの好きなこと（編み物だったり折り紙だったり、ゲームだったり…）をされます。地域ケア会議等で「認知症らしい人がいるけれど、関わりを拒否される」と時々聞いており、認知症の人や介護で困っている人たちが気軽に情報交換したり、安心して悩みを打ち明けられるような場が必要だと考えていました。

④ 取組の内容

本事業は、平成26年10月～平成27年2月の間で毎月1回開催しました。会場は、京都市の高齢者「居場所」づくり助成事業の対象となっている「かたりば朋」(七条学区)と「キッチンNagomi」(大内学区)をお借りして交互に行いました。今回のモデル事業のような財政的な支援がなくなったときのことを考えて、コーヒーやおやつ付きとしたうえで、参加者一人当たり300円を会費としていただきました。プログラムとしては、最初の約20分は地域介護予防推進センターによる軽い体操、その後の約1時間は講師を招いて歌声喫茶や貼り絵教室といったアクティビティ、最後にコーヒーとお菓子でくつろぐ時間を設け、全体で1時間半～2時間で終了するようにしました。

⑤ 取組の工夫

- 当センターと同一法人の病院には自由に使える交流ホールがあり、場所もセンターと隣接しているので、普段はそこで介護予防教室をしています。しかし4141カフェは、病院や施設ではなく、あえて街中にふつうにあるカフェなどを会場にしました。ランチや喫茶店に行く感覚で気軽に立ち寄ってもらえるようにしたかったのと、オープンな雰囲気集まりにすることで、「認知症」という病気についていろいろな人に関心をもってもらえると考えたからです。
- 広報は、見守り活動の担い手である老人福祉員さんや民生委員さんを中心にお願ひしました。また、案内のチラシに「認知症」という言葉を入れるか入れないかですいぶん迷ひ、話し合ひを重ねました。別に強調することもないけれど、腫れ物に触るみたいに隠す必要もないのでは?ということになり、「認知症に関心のある方・介護で困っている方の居場所です」と書くことにしました。

⑥ 取組の成果

- 参加者は各回5～8名で、スタッフは地域包括支援センター・地域介護予防推進センターのほかに区社会福祉協議会の職員やボランティアさんが来て手伝ってくれたので、総勢15～18名となり会場はいつもいっぱいでした。相手に認知症があるうがなからうが、人としてのマナーや思いやりは一緒なので、今のところ、ボランティアさんたちへの特別な研修等はありません。
- まだ5回しかしていませんが、「ここは自分がいていい場所」と思って楽しみに来てくれる方たちがいます。要介護認定の有無を問わず、歩いて行ける距離のところどこざんまりと集まれて、スタッフがほぼ1対1で関われるのが、介護保険の通所系サービスとはまた違う点だと思います。

⑦ 見えてきた課題

認知症カフェは、実際にやってみないとわからない、というのがわたしたちの正直な気持ちです。始める前には予想もしていなかった（単に考えが甘かったのかもしれない）ことがいくつか起こりました。

①事前に申し込みをされていたにも関わらず、当日すっかり忘れていて来ない。

→前日や当日に電話をかけたり迎えに行ったりした。

②2つの場所で交互に、しかも開始時刻も違うため、認知症の人はこんがらがってしまう。

→すべてのカフェに誘うのではなく、「この人はこのカフェ」と決めたほうがいいのかもしれない。

③老人福祉員さんたちに「認知症?と気になる人がいたら誘ってほしい」とお願いしていたが、「気になる人はたくさんいるけれど、「認知症」という言葉を出しただけで怒り出す人がいるので、どういふうに声をかけたらいいかわからない」と言われた。

→うまく誘ってくれる老人福祉員さんもいるので、今回の取組の報告を兼ねて、どのような声のかけ方をすればよいかの研修を企画しようか、という話が出ている。



⑧ 今後の展望

こうした取組は続けないとあまり意味がないのではないかと考えています。今はスタッフがカフェのプログラムを考えていますが、当事者さんの「〇〇がしたい」という希望や自主性を大事にしていきたいです。開催場所や運営費をどうするか、という課題はこれから先も残りますが、いずれは圏域内の医療機関や歯科医、薬局、地域密着型施設等とも連携して「下京西部認知症ネットワーク」みたいなものができればいいなと思います。

⑨ 感想、他地域に伝えたいこと

モデル事業に取り組むに当たり、わたしたち自身のなかに潜む、認知症への偏見に気付くことができました。認知症の人やご家族への支援、一般の人への啓発は、地道に根気よく続けていくしかないのではないのでしょうか。

⑩ 問合せ先

下京西部地域包括支援センター（高齢サポート・下京西部）

☎075-326-3639（平日9時～17時）

京都市下京区西七条南中野町41-1

（ちなみに、4141カフェという名前は、この住所地からとりました）



41 41 よいよい だより



2014. 秋

下京・西部地域包括支援センター

認知症になっても安心して楽しく暮らせるように…

よいよいカフェとは？

認知症は、誰にも起こりうる脳の病気です。85歳以上では4人に1人にその症状があるといわれている、とても身近な病気です。しかし、物忘れや認知力の低下から不安な気持ちになり、まわりの人たちと気まずい関係になったり、介護している家族が疲れ切ってしまうことも少なくありません。でも、周囲の人たちの理解とちょっとした気遣いで、穏やかに暮らしている人たちもたくさんいます。当センターでは認知症予防に合わせ、認知症について知り、学び、ともに暮らしていくことを目指した活動として、2014年10月から月に1回「よいよいカフェ」を開催しています。物忘れがあっても少し不安な方や認知症の人を介護しているご家族、認知症についてもっと知りたい、という方たちの集いの場です。認知症があってもなくても一緒に楽しく過ごせて、不安や悩みを気兼ねせずに語り合える。そのような場所にしたいと考えています。なおこの活動は、京都市の認知症対応地域支援推進モデル事業に採択されています。

第1回よいよいカフェ



↑ 介護予防推進センターによる懐かしビンゴ。軽い頭の体操です。



キッチンNagomiさんで。1回目は歌声喫茶で盛り上がりました。「京都ピアノとうたの音楽ひろば」の上平さんです。終了後、ランチを楽しむ方も。

第2回 よいよいカフェ

かたりば朋さんで貼り絵制作。絵画教室でおなじみの寺田先生に指導していただきました。作品は文化祭で展示しました。



よいよいカフェのご案内

12月12日（金）10時～12時
キッチンNagomi（七条大宮）
寺田みのるさんの指導で貼り絵を作ります。

1月22日（木）14時～16時
かたりば朋（梅小路東中町）

事前申込制。会費300円（ドリンク付）
お申込は、下京西部地域包括支援センター。
Tel 326-3639



→この日のおやつ。かたりば朋さんお手製の干し柿です。ご自宅の庭で採れた柿の実だそうです。とっても甘くておいしかったです。



41 41 よいよい だより



2015. 冬

下京・西部地域包括支援センター

認知症になっても安心して楽しく暮らせるように…



本年度よいよいカフェ無事終了！

昨年10月から、京都市の認知症対応地域支援推進モデル事業の一環として、計5回の「よいよいカフェ」に取り組み、最終回を2月27日に無事終了する事ができました。手探り状態から始まり、回を重ねるごとに新しい課題も見えてきて、運営の難しさを感じています。でも、参加されている皆様の笑顔や「次あったら、また知らせてや。」の嬉しいお声に励まされ、何とかやってこれました。近所の方が「わたしも行くから一緒に行こう」と不安がるお年寄りを誘ってくださったり、「楽しそうだから自分も参加してみたい」と、遠い他区から手伝いに来てくれた人もいます。たくさんの方たちのご協力とご好意に感謝感謝です。来年度は、どんな形で運営できるか現在検討中ですが、更にパワーアップして、認知症があってもなくても一緒に楽しく過ごせて、不安や悩みを気兼ねなく語り合える場所となるよう、続けていきたいと思っています。

第3回よいよいカフェ

2014/12/12
カフェ@キッチン
Nagomi
再び寺田画伯登場。



旅行のパンフレットやチラシなどを使って貼り絵を作ります。お題は「食べ物」。スタッフもつい夢中になってしまいました。

←まずは新聞紙を使った体操で体と気分をほぐします。



第4回よいよいカフェ

2015/1/22
カフェ@かたりば朋



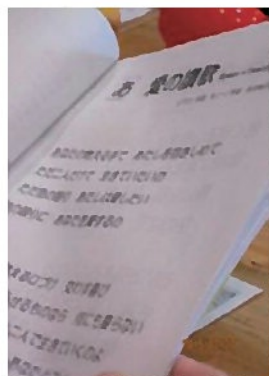
お正月の懐かしい遊び、坊主めくりと福笑いをしました。



この日のおやつ↓



第5回よいよいカフェ



2015/2/27 カフェ@キッチンNagomi。介護予防推進センターの健康運動指導士さんに、身近にある物を使ってできる筋トレを教えてもらいました。これは輪ゴムを使って握力をつける

この日のメインは「京都ピアノうたの音楽ひろば」のお二人をお招きしての歌声喫茶。「愛の賛歌」が大好きで、毎晩寝る前にカセットで聴いているという方からのリクエストが入り、みんなで情熱的に歌いました。

取組④

SAKURAカフェ

(テーマE：地域密着型サービスとの連携で支える)

社会福祉法人 永山会（下鳥羽地域包括支援センター受託法人）

① 実施主体の紹介

今回の取組は、下鳥羽地域包括支援センターと、小規模多機能型居宅介護と認知症対応型デイサービスを実施する事業所「板橋の町家ほっこり」が主催で運営し、共催として、板橋学区民生・児童委員協議会、板橋学区老人福祉員、板橋学区社会福祉協議会に協力してもらっています。

② 実施地域の特徴

伏見区本所管内の中心部（板橋学区）に位置し、伏見区総合庁舎、大手筋商店街等の公共機関、商業地がある伏見区で最も賑わいのある地域です。古くから商業地として栄えていたことから、人口も多く、加えて高齢者人口も多い地域でもあります。モデル事業の会場である「板橋の町家ほっこり」は、以前医院として開業されていた建物（京の町家）をそのまま活かした造りとなっています。所在地も板橋学区の町なかにあり、小学校や中学校、住宅地の近くにありま

③ 取組の目的

元々、「板橋の町家ほっこり」では地域住民向けのサロンを約2年前から開催していましたが、最近は認知症の方が増えていることもあり、特に若年性認知症や軽度の認知症の方を対象としたカフェの開催が開催できないか考えたのが、きっかけです。また伏見区本所管内では、認知症カフェの活動実績がなく、社会的ニーズも感じていました。

④ 取組の内容

日 時	第1回 平成26年10月2日（木）	第2回 平成27年1月25日（日）	いずれも14時～16時
場 所	小規模多機能型居宅介護事業所「板橋の町家ほっこり」		
対 象 者	若年性認知症の方、軽度認知障害（MCI）の方、介護保険制度等を利用していない方 等		
定 員	約10名（予約制）		
内 容	各回とも3部構成 第1部「認知症についてのお話」 第2部「ミニコンサート」 第3部「カフェ・交流タイム」		

全体を通じて、スタッフは地域包括支援センターや「板橋の家ほっこり」職員など、7～8名で対応しました。第1部の講話も、包括職員や小規模多機能型居宅介護事業所職員が行いました。また、第2部のミニコンサートは、奏者をボランティアで依頼しました。第3部のカフェタイムでは、参加費を200円とし、コーヒーとミニパンケーキを提供することで、なごやかな雰囲気生まれました。

⑤ 取組の工夫

SAKURAカフェを運営するために、実行委員会を立ち上げ、月1回会議を設けました。内容の企画については、他の行政区や宇治市の認知症カフェにも見学に行き、運営のノウハウを勉強しました。

⑥ 取組の成果

参加者数は、第1回で10名、第2回で7名でした。

参加者の動機は様々で、軽度認知症があり、家族と来られる方もいれば、要介護認定を受けてはいないが「行き場」のほしい方、また「認知症になりたくない」ために来られる比較的健康な方もありました。こうした参加者のニーズが違う中、それぞれがカフェを楽しむことができたので、全体的には成功したのではないかと思います。

参加人数も会場の広さとマッチしており、カフェタイムでは、認知症の人同士で積極的に会話をされていました。介護者の人たちも同じ空間で、一緒に時間が過ごせ、興味をもって接していた印象でした。

⑦ 見えてきた課題

- 認知症のご本人だけでなく、介護するご家族も交流できる機会が重要です。交流することで、息抜きになったり、有益な情報交換をすることで介護負担の軽減にもつながります。そのためには、家族同士で話せるスペースも必要と感じました。
- 開催曜日の調整が難しいと感じました。開催日が平日の場合、家族が参加したくてもできないこともあります。一方、土曜日・日曜日の場合、スタッフが集まりにくいです。
- 今回は、第1部のお話を介護専門職で行いましたが、今後は、地域で開業されている精神科医などに依頼し、医師を身近に感じられる機会をつくりたいと思っています。

⑧ 今後の展望

SAKURAカフェは、今後、毎月開催ができるように実行委員会で引き続き検討を行っていきたいと思います。今回は板橋学区を中心に取組を行いましたが、下鳥羽地域包括センターが担当する南浜学区もまた高齢者人口が多い学区であり、新しく認知症カフェを開催する企画を検討しています。

⑨ 感想、他地域に伝えたいこと

認知症カフェは、1学区に1箇所が理想と思われます。そのけん引役として、地域包括支援センターに求められる役割、期待は大きいと思います。「認知症の人と家族の会」が発祥したのも京都、「京都式認知症ケアを考えるつどい」も大きな盛り上がりを見せる中、認知症に強い地域・京都市を目指して一緒にがんばりましょう。

⑩ 問合せ先

下鳥羽地域包括支援センター（高齢サポート・下鳥羽）

☎075-604-5011（平日9時～17時）



第1回

SAKURA カフェ

日時

10月2日(木)
14:00~16:00

定員：約10名

参加費：200円

飲み物と手作りお菓子

〔申込先〕

京都市下鳥羽
地域包括支援センター
TEL 075(604)5011

「家事が以前に比べて難しく感じてきた」

「身だしなみに無頓着になってきた」

「最近、物忘れや探し物が増え、生活に
困ることがある」

・・・じゃあこれから、どうしていけばいいの？
そんな誰でもおこりうることについての相談、
交流の場です。

近くにそんなお年寄りがいて、気になっている
・・・という方も参加を歓迎します。

内容

①講演：認知症って何？
(下鳥羽地域包括・専門職より)

②音楽演奏会
(板橋の町家ほっこり
音楽サークルより)

③カフェタイム

〔対象者〕

介護保険サービスを利用されていない方

〔締め切り〕

9月20日(土)

※参加多数の場合は、
お断りする事があります。

※当日、送迎は行っており
ませんので、公共交通機
関等でお越しください。

バイク・自転車の駐輪場あり
(さくらハウス板橋
西側駐車場内)

場所：板橋の町家ほっこり1階・伏見区土橋町334-1
和喫茶さくら



第2回

取組⑤

ほっこり☆カフェ

(テーマE：地域密着型サービスとの連携で支える)

医療法人 医仁会（醍醐南部地域包括支援センター受託法人）

① 実施主体の紹介

伏見区醍醐支所管内には醍醐南部・醍醐北部と2つの地域包括支援センターがあり、密に連携をとりながら、日々高齢者支援や地域福祉に貢献しています。

醍醐南部地域包括支援センターは、醍醐南部の小栗栖・小栗栖宮山・石田・春日野・日野と5つの学区を担当していますが、今回は担当地域として運営推進会議にも参加している小規模多機能型居宅介護事業所「小栗栖の家ほっこり」と共同で事業運営に取り組みました。

② 実施地域の特徴

醍醐支所管内の平成26年7月1日現在の人口は53,414人、世帯数25,414世帯で、うち公営住宅は11,000世帯を超え、約50%を占めています。管内人口が減少しているなかで、65歳以上の高齢者人口は15,465人と年々増加し続けており、人口に占める割合は29.0%で、全市平均の26.1%を上回っています。

公営住宅には、相対的に独居高齢者や高齢者のみの世帯・また経済的にも低所得の住民が多いのが現状であり、また賃貸住宅ゆえに住民の入れ替わりが多く、住民同士の関係性が希薄で孤立傾向、及び情報交流が上手く進まない状況があります。そのなかで地域密着型の福祉施設拠点が、積極的に交流の場や情報提供することは価値があると考えています。

③ 取組の目的

昨今、独居世帯、高齢者のみの世帯が急激に増加しています。それにより、認知症を患う方々との出会いで「早く」「緩やか」にかかわるためには、初期認知症の方や認知症でお悩みの方やその家族等が気軽に参加できる地域の「居場所づくり（認知症カフェ）」が必要と考えています。また、単なる「居場所づくり（認知症カフェ）」に終わることなく、「認知症についての関心の高い地域づくり」には、音楽鑑賞や体操などのイベント的プログラムを行うことにより、より多くの人に関心や興味をもってもらい、その中で「認知症についての学習」を実施する必要性を感じています。

その中で参加者の知識を深めてもらうための独自の取組として、認知症関連の書籍やDVDなどをミニ図書として整備、貸し出しを行うことにより、参加者だけでなく近隣の社会福祉施設における認知症職員研修等に役立ててもらおうと考えました。

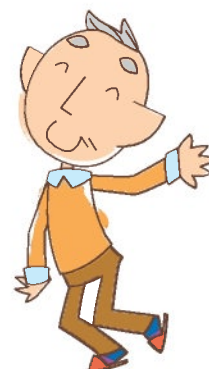
カフェが目指すべき目標として、次の6点を考えています。

- ① 出会いのポイントを早くする
- ② 居心地の良さ と 敷居の低さ
- ③ 住み慣れた地域に、情報交換や交流ができる場所がある
- ④ 認知症の人の生活状況等を理解したうえで、「入り口」にかかわるかかりつけ医・医療関係者等とのスムーズな連携
- ⑤ カフェを通じた認知症患者等と地域、専門職、介護施設関係者とのネットワークの充実
- ⑥ 2～3ヶ月に1回等の『定期開催』につなげる。



④ 取組の内容

名 称	ほっこり☆カフェ
日 時	3カ月に1回（計3回）開催 ①平成26年8月31日（日）、②平成26年11月29日（土） ③平成27年2月11日（水・祝） いずれも14時開始、1時間半～2時間程度開催
場 所	小規模多機能型居宅介護事業所「小栗栖の家ほっこり」
対 象 者	認知症の人とその家族 及び 認知症に不安を抱える人（参加定員上限10名程度）
内 容	運動・作業療法、講話を交えた茶話会
スタッフ 体 制	醍醐南部地域包括支援センター職員1～2名、小栗栖の家ほっこり職員2～3名 近隣サービス事業所2名程度、スタッフ合計5～6名程度



⑤ 取組の工夫

- 専門職（地域包括支援センター職員）による完全紹介制とし、介護認定の有無を問わず、社会的交流頻度が少なく他者との交流機会を求めている方を対象としました。包括職員のアセスメントを経て参加となることもあり、当初からカフェの趣旨・目的に合う方に参加を促すことができました。また、実際に通所介護等のサービスに上手く繋がっていない方においても、「よりハードルの低いカフェという形なら参加してみます」という対象者層を積極的に勧奨することができました。
- 地域包括支援センター職員による完全送迎制を実施しました。普段、外出機会が少ない方も誘いやすく、また参加者にとっても「送迎があるから出てこられた」という意見があるなど、参加を促すのに適した対応でした。また、送迎の際に職員が直接、利用者の意見・感想を伺うこともでき、その内容がポジティブなものであれば、主催側の開催意欲に繋がり、予想していない形の成果として捉えることができました。
- 作業療法中心の認知症予防体験型イベント（手打ちうどん作り、工芸品の創作など）を行いました。調理作業等の作業療法を通じて、認知症予防と参加者交流を活性化していく取組を中心にすえたことで、参加者の今までの生活能力を生かすことができ、参加者一人一人がお喋りしながら手を動かしながら交流を深める雰囲気づくりができました。また、デュアルタスク（二つのことを同時に行う）の要素もあり、脳を活性化するにはちょうど良いと感じました。

⑥ 取組の成果

カフェの開催を重ねるにつれて、本人や家族の参加者も増え、3回目には定員10名を超す参加となりました。

また、モデル事業実施に当たり、カフェ運営の参考とするために、既に実践されている醍醐地域の各カフェの運営団体と見学・打合せを繰り返しました。その関係で、今では醍醐地域の4つの認知症カフェ（23ページ参照）が集まり、運営のための情報共有、利用者紹介、広報活動の効率化を行う定期的な連絡会を、醍醐南部・醍醐北部包括支援センターが中心となり開いています。4つのカフェのそれぞれの取組を1枚にまとめたチラシ入りティッシュなどを作成しました。

⑦ 見えてきた課題

会場が狭く一回の参加定員については10名が限界でした。毎回参加していただいている方もあり、一部の方だけのカフェにならないよう回数を増やしていく必要性は感じますが、それだけ主催者側の人的な負担も高くなります。またカフェ機能として、地域の認知症相談窓口としては機能しつつありますが、「入り口支援」である初期認知症対応や家族交流機能としては、十分とはいえない現状です。スタッフの負担を最大限考慮しながら多くの人にご利用していただけるカフェを目指す必要があります。

⑧ 今後の展望

醍醐地域の認知症カフェ連絡会では、醍醐という日常生活圏域としては比較的まとまりやすい地域性に対して、各団体が介護保険外サービスの自由性を生かし、そして協力し合って地域住民や専門職団体に対して発信力を高め、幅広い層にアプローチをかけようと思っています。

⑨ 感想、他地域に伝えたいこと

カフェの内容は、毎回、スタッフが楽しめることを主体に考えています。スタッフが醸し出す「穏やかで楽しい雰囲気」に、参加の皆さんが笑顔となり、また認知症という暗くなりがちな話題に「軽やかにかかわる」。今後も、そんな参加者同士、スタッフ間とのコミュニケーションをメインとした認知症カフェを目指していきたいです。

⑩ 問合せ先

醍醐南部地域包括支援センター（高齢サポート・醍醐南部）

☎075-572-6572（平日9時～17時）

社会福祉法人京都老人福祉協会 小栗栖の家ほっこり

☎075-575-2466（平日9時～17時）



作成したチラシ

認知症 ほっこり☆カフェ

8/31(日) 13:30~

認知症・物忘れ等でお悩みの方、
またその家族の方の相談交流場

日時: 平成26年8月31日(日)
受付 13:30~ 時間 14:00~15:30
場所: 小栗栖の家 ほっこり

京都府伏見区小栗栖牛ヶ岡町30
TEL: 075-575-2466

定員: 10名(申込み必要)
料金: 200円
内容: 手打ちうどん作り

申込先: 高瀬サポート・福崎南郡 075-572-6572
受付時間: 平日 8:30~17:00
参加ご希望の方はお気軽にご連絡下さい

認知症 ほっこり☆カフェ

日時: 平成26年11月29日(土)
受付 13:30~ 時間 14:00~15:30
場所: 小栗栖の家 ほっこり

京都府伏見区小栗栖牛ヶ岡町30
TEL: 075-575-2466

定員: 10名(申込み必要)
料金: 200円
内容: 脳年齢診断・おやつ作り

申込先: 高瀬サポート・福崎南郡 075-572-6572
受付時間: 平日 8:30~17:00
参加ご希望の方はお気軽にご連絡下さい

**認知症・物忘れ等でお悩みの方、
またその家族の方の相談交流場**

ほっこり ☆カフェ

日時: 平成27年2月11日(水・祝)
受付 13:30~ 14:00~16:00
場所: 小栗栖の家 ほっこり
京都府伏見区小栗栖牛ヶ岡町30 TEL: 075-575-2466

定員: 10名(申込み必要)
内容: 作品づくり
: スライショール(絶景・福崎の四季)
: カフェタイム
参加費: お茶菓子代(各\300程度)
問合せ 申込先: 高瀬サポート・福崎南郡 075-572-6572
受付時間: 平日 8:30~17:00
参加ご希望の方はお気軽にご連絡下さい

醍醐 オレンジ（認知症）カフェ 一覧

店名	カフェide オレンジサロン	ほっこり☆カフェ	オレンジカフェ ただた	オレンジサロン ほっこり
電話	571-0010	575-2466	572-6530	575-3888
場所	カフェ工房 「ひのぼっこ」	小栗栖の家 ほっこり	医仁会 武田総合病院	醍醐の家 ほっこり
法人	社会福祉法人 同和園	社会福祉法人 京都老人福祉協会	医療法人 医仁会	社会福祉法人 京都老人福祉協会
協力 包括	高齢サポート 醍醐北部	高齢サポート 醍醐南部	高齢サポート 醍醐南部	高齢サポート 醍醐北部
開催日	毎月1回 第4日曜日	3ヶ月に1回 不定期	2ヶ月に1回 第3土曜日	毎月1回 第2日曜日
開催時間	2時間	2時間	1.5時間	2時間
内容	3部構成 情報提供 音楽鑑賞 カフェタイム	3部構成 情報提供 調理・運動・創作活動 カフェタイム	3部構成 情報提供 体操・合唱・読み聞かせ カフェタイム	4部構成 情報提供 音楽鑑賞・体操・出し物 カフェタイム
利用者 参加人数	10名程度	10名程度	10-20名程度	5-6名程度とその家族
参加費	500円	200円	200円	200円
送迎	送迎一部あり	完全送迎	送迎なし	送迎一部あり
特徴	カフェ機能生かした 本格的喫茶提供	小規模施設のキッチン機能生かした料理や創作活動を生かした作業療法提案	入院患者介護施設入居者も利用中 医仁会中心の医療・介護連携	オリジナル体操あり
機能	介護家族交流・支援 認知症初期支援 認知症後方支援 専門職連携	認知症初期支援 地域交流認知症予防啓発 認知症後方支援 専門職連携	認知症初期支援 認知症後方支援 専門職連携 医療看護連携	介護家族交流・支援 認知症初期支援 認知症後方支援 専門職連携